



町産食材をふんだんに使った給食を楽しむ江刈小学校の児童

豊富な食材の給食で くずまきの魅力を再確認

地産地消学校給食会は11月29日、町内全小中学校で行われ、江刈小学校（越智秀樹校長、児童24人）には觸澤義美副町長らが訪問し、子どもたちと一緒に給食を味わいました。

くずまき高原牛やチーズ、地元で作られた豆腐などの町産食材を使った給食を堪能した觸澤副町長は「地域の食材に目を向ける機会にしてください」とあいさつ。遠藤礼二郎くん（5年）は「ステーキとヤマブドウのソースは、意外な組み合わせだったけれど、とてもおいしかったです」と満足げでした。

認知症研修会に100人 理解と接し方を学ぶ

認知症研修会は12月5日、総合センターで約100人が参加して開催されました。

町や施設職員のほか、お年寄りと接する機会が多い金融機関や郵便局など、町内事業所の職員らが出席。岩手西北医師会認知症支援地域ネットワーク代表の紺野敏昭医師（このの神経内科・脳神経外科クリニック理事長）を講師に、認知症の症状や接し方などを学びました。参加者たちは、生きがいの再発見が暮らしの質の向上につながり、地域全体で支えることが大切との講話を時折うなずきながら聞いていました。



認知症を理解しようと真剣に耳を傾ける参加者たちと講師の紺野敏昭医師（円内）



メモを取りながら講演を聞く参加者の皆さんと講師の觸澤陽介さん（円内）

障害がいで困っていること 理解するための講演会開催

障害を理解するための講演会は11月30日、総合センターで開催され約90人が来場しました。

講師は盛岡市で株式会社LIVE LOBO（就労移行支援事業所）の代表を務める田子出身の觸澤陽介さん。社会福祉士の資格を持つ觸澤さんは、発達障害にはそれぞれに特性があることや自身が受けた相談ケースなどを紹介。本人や、家族が何に困っているかを理解し、地域で支援できる体制づくりが大切と話していました。

参加者たちは、メモを取りながら真剣に耳を傾けていました。

フェラリエワンズ 牛飼い女子が交流会 飾り巻きずしに挑戦

畜産に携わる若手女性グループのPueraria ones（村澤真澄会長、会員28人）は11月28日、定例の交流会を開催し、飾り巻きずし作りに挑戦しました。

初参加の栗畑友美さん（43歳、栗山）は「飾り巻きずしが完成したら、断面が牛の顔になって面白かった。家で切るのが楽しみです」と家族の反応に胸を膨らませていました。また、村澤会長は「定例会や勉強会を通じて、地域や世代を超えた交流の受け皿にしたい」と参加を呼び掛けていました。



岩手県食の匠の阿部光子さん（野中）から手ほどきを受ける参加者と完成した飾り巻きずし（円内）



仲間の声援に後押しされながら白熱した戦いを繰り広げる選手

柔道選手権大会開催 熱い声援が響き渡る

中学生以下の選手が出場する町柔道協会（中村哲雄会長、会員46人、うち少年団員20人）主催の第31回葛巻町柔道選手権大会は12月2日、社会体育館で開催され町内外から216人が参加しました。

中村会長は「柔道は心と体を鍛え、技を磨くことで総合的に人間力が向上します。大会を通じて友達をつくったり、友情を育む機会にしてください」とあいさつ。本町からは4歳から中学2年生までの選手が出場。会場には仲間を思う熱い声援が響き渡っていました。



鈴木重男町長から新婚ライフサポート金を受け取る元村光広さん、寿美子さん夫妻

葛巻で一緒に暮らそう！ 定住＆新婚に補助金交付

定住奨励金と新婚ライフサポート金の交付式は12月14日、町長室で行われ定住者2名、新婚世帯1世帯に補助金が交付されました。

鈴木重男町長は「一人でも多くの若い方々が町に来てほしいという思いから創設された制度です。皆さんからも、葛巻で一緒に暮らそうと情報発信してほしい」とあいさつ。地域おこし協力隊として着任し、町への移住を決めた高野嘉明さん（44歳、小田）は「町のことをもっと知り、町外に魅力を伝えてファンを増やしたい」と意欲を見せていました。